

## 三溪園学芸員 清水緑氏による講演を開催しました

6月の定例研究会では、三溪園学芸員の清水緑さんをお招きしてお話を伺いました。

### 「原三溪と美術」

三溪園 清水緑

#### 【講演概要】

三溪と美術の関わりについて、①古美術蒐集 ②作家支援 ③美術研究 ④制作 以上4点に分類し、③④について概要説明を行った。

③は、『原三溪翁伝』にもあるように、画人以外の作品を集めた画集『余技』の編纂、所蔵品について美術史をふまえ伝来とともに記した画集『三溪帖』の編纂と草稿、また、『日本美術院再興記念展覧会出品図録』への書き込み、という3点に焦点をあてた。

④は、三溪自身の作品を数点回覧しつつ、作品集『三溪画集』の概要説明とともに、作家をはじめ文化人から届いた画集への礼状を簡単に紹介した。『三溪画集』は、三溪自身「これは余の肖像なり」と記しているように、三溪の内面をあらわす恰好の資料といえる。

会員の感想を紹介します。

『三溪画集』と三溪が詠んだ漢詩から伊豆長岡の南風村荘に関したものを拾ってみると、三溪はあたかも桃源郷に帰ったような気持ちに切り替えているのが分かる。三溪は自然の中に真理があると思いながら、実業の世界とは別のもう一つの人生をしっかりと生きようとしている。1歳違いの漱石も文人画を描いており、詩書画に対する取組は似ているのではないだろうか。一緒に展覧会で見られるといいのだが。（藤嶋）



蓮の花や小動物、旅先の生活風景などを多く描いている三溪さんの絵の評は「画格」の高さを多くの方が指摘しているというのを聞き、絵から受けるやさしい印象は品格があらわれているからなのだ、と納得しました。きっと三溪さんの人となりや絵が雄弁にかたっているのだとおもいます。三溪さんの作品をあつめた『三溪画集』が横浜中央図書館にあるので、一度じっくりみたいとおもいました。（速水）